

第3章 備前市の文化資源の概要

令和3(2021)年3月末時点での備前市内の指定文化財は121件です。国指定14件、県指定23件、市指定82件となっています。このほか、登録有形文化財は2件です。種別としては、遺跡が28件と最も多く、続いて建造物が23件と続きます。特に市指定建造物(石造美術を除く)は市指定文化財全体の約15%を占めています。また、重要無形文化財の保持者として15名が認定を受けています。

指定等を受けていない「文化資源」は、現在把握されているだけで3,214件あり、文化財保護法に示される文化財の種類に従って分類しています。分類にあてはめにくい項目、例えば備前焼作家、文学者は無形文化財の分類に、風俗習慣、郷土料理、郷土民話、郷土民謡などは無形民俗文化財の分類としています。

以下、類型に従って指定等文化財・未指定文化財の概要を記しています。

【表3-1】備前市文化資源件数一覧

令和3年12月1日現在

備前市指定文化財件数表

令和3年12月1日現在

平成30年12月1日現在

	有 形 文 化 財									無 形 文 化 財（保持者数）	民 俗 文 化 財		記 念 物			文 化 の 景 観	計
	建造物		美 術 工 芸 品								有 形 民 俗 文 化 財	無 形 民 俗 文 化 財	遺 跡	名 勝 地	動物、植物、地質鉱物		
	建 造 物	石 造 美 術	絵 画	彫 刻	工 芸 品	書 跡・典 籍	古 文 書	考 古 資 料	歴 史 資 料								
国指定	7	—	—	1	—	1	—	—	—	1(1)	—	—	4	—	—	—	14
県指定	3	—	2	4	6	—	—	1	1	1(7)	1	1	2	—	1	—	23
市指定	13	7	4	4	6	3	1	1	5	1(7)	—	4	22	3	8	—	82
登録有形	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
指定等計	25	7	6	9	12	4	1	2	6	3(15)	1	5	28	3	9	—	121
未指定	208	708	326	267	133	229	34	75	14	367	11	286	466	18	62	10	3,214

1 文化財類型に基づく文化資源

(1)有形文化財

指定の内訳は国指定 9 件、県指定 17 件、市指定 44 件の合計 70 件です。このうち建造物が 30 件、美術工芸品など 40 件となります。

① 建造物

旧 閑谷学校は、寛文 10(1670)年に岡山藩主池田光政が庶民の子弟教育を目的として作らせた学校として知られています。学房^{がくぼう}や飲室^{いんしつ}などが順に完成し、現在の規模になったのは元禄 14(1701)年とされています。国宝の旧閑谷学校講堂をはじめ、旧閑谷学校聖廟^{せいびよう}、旧閑谷学校石塀^{いしべい}など全 25 棟が国の指定を受けています。このほかの国指定では、大滝山三重塔、真光寺三重塔、真光寺本堂があります。

県指定では、大滝山福生寺^{ふくしょうじ}本堂、大滝山福生寺仁王門^{しょうらくじ}、日光山正楽寺山門の 3 件があります。大滝山福生寺は奈良時代天平勝宝年間(749～757)に開かれましたが、康正元(1455)年、戦火によってことごとく焼失し、その後次第に復興したと伝えられます。県指定の本堂は岡山藩二代藩主池田綱政が大願主となり、天和 2(1682)年に建立されました。仁王門は応永 4(1397)年に足利義満が建立したと伝えられます。康正元(1455)年の焼失を免れ、元和 9(1623)年の大改修を経て現在に伝わります。日光山正楽寺は報恩大師^{ほうおんだいし}が備前 48 か寺を開創したとき、その一つとして建立されたと伝えられる真言宗の寺院です。正楽寺山門は文化



真光寺三重塔

14(1817)年建立とされ、雲と波の彫刻を施した板軒仕立て^{いたのきした}の建造物は県内唯一確認されている作例として、平成 29(2017)年 3 月 7 日に指定を受けました。

市指定は、建造物 13 件と石造美術 7 件の合計 20 件となります。旧吉永町では、神根神社本殿^{こうねじんじや}、松本寺本堂^{しょうほんじ}、松本寺宝篋印塔など 6 点、旧日生町では、17 世紀中頃建築でその後移築されたという西念寺表門^{さいねんじ}の 1 件、旧備前市では、御滝山真光寺仁王門、天津神社本殿^{あまつじんじや}など 14 件で、旧備前市の指定文化財の数が多くなっています。中には江戸時代の備前焼を焼成する連房式^{れんぼうしき}の窯の地上構造物をその一部に残す、天保窯^{てんぼうがま}もあります。

未指定文化財として、明治時代以降の建造物・構造物等に関しては、平成 17(2005)年に「岡山県近代化遺産総合調査」によって 57 件が一覧化されました。このうち、令和 3(2021)年 6 月の時点で 51 件が現存しています。内訳は農業分野 1 件、鉱山業分野 1 件、窯業分野 3 件、商業分野 5 件、道路分野 3 件、鉄道分野 18 件、海運分野 3 件、通信分野 1 件、治水分野 3 件、上下水道分野 4 件、宗教分野 4 件、生活分野 5 件となっています。鉄道分野の数が突出していますが、このうち 8 件は、JR 山陽本線船坂トンネル、JR 山陽本線小屋谷川^{こうきょ}拱渠など、三石地域に所在する煉瓦製の構造物となっています。さらに鉱山業分野では吉永地区の旧山陽クレー製造所、窯業分野では三石耐火煉瓦株式会社の施設 2 件が含まれるなど、耐火煉瓦に関係する施設は地域の歴史・産業を特徴付けるものとして評価されています。

② 美術工芸品

国指定として、^{みょうこくじ}妙因寺の^{もくぞうしやかによらいざぞう}木造釈迦如来坐像、^{しぎこうしき}正楽寺の四座講式の 4 巻が指定を受けています。木造釈迦如来坐像は、像底板に「運慶六代孫大仏師法印^{びやくごう}廣イ作 延文三(1358)季十一月日」と室町時代北朝の年号の朱書銘があります。^{びやくごう}白毫も当初のものであり、後補のない仏像となっています。四座講式は鎌倉時代の建保(1215)3 年正月作の法会の要目表です。巻末に「建保三年正月云々、沙門高弁」とあり、鎌倉時代の^{けごんしゅう}華嚴宗の僧^{そうみょうえしやうにんこうべん}妙恵上人高弁の著作とされ、全 4 巻とも完備されています。

県指定は 14 件が指定されています。内訳は、^{けんぽんぼくがびやくえかんのんず}絹本墨画白衣観音図などの絵画 2 件、木造阿弥陀如来及^{りょうわきじぞう}び両脇侍像などの彫刻 4 件、備前焼茶壺などの工芸考古 7 件、工芸品として、太刀無銘(^{でんくにとし}伝国俊)の 1 件、歴史資料として、関谷中学校関係歴史資料の 1 件となります。

市指定は 24 件が指定されています。内訳は、^{あみだによらいがぞう}阿弥陀如来画像などの絵画 4 件、^{ともがぶやくしによらいざぞう}友延薬師如来坐像などの彫刻 4 件、^{うさはちまんぐうびぜんやきこまいぬ}宇佐八幡宮備前焼狛犬などの工芸考古 7 件、長法寺古文書が古文書として 1 件、長法寺^{だいほんにやきょう}大般若経などの書跡典籍 3 件、和気郡三石村往還筋家並分見絵図などの歴史資料 5 件となっています。

また、未指定の仏像は平成 24(2012)年に把握したもので 267 件あり、時代としては平安



木造釈迦如来坐像

時代のものから平成に入って作られたものまで多岐にわたりました。このほか地域特有の有形文化財として、備前市八木山地区には江戸時代初期に創建、京都から運ばれた池田輝政らの遺骨などが仮安置された鏡石神社や、鏡石神社ろう石造池田輝政公坐像といったろう石細工や、各地域の神社に奉納されている江戸時代以来の絵馬などがあります。

(2)無形文化財

備前焼の製作技術に係る無形文化財の認定及び保持者の内訳は、国指定重要無形文化財 1 件(保持者 1 名)、岡山県指定重要無形文化財 1 件(保持者 7 名)、備前市市指定無形文化財 1 件(保持者 7 名)の合計 3 件(15 名)です。

伊部地区の一带は古くよりやきものの産地として知られていて、現在でも多くの窯元や作家がその伝統を受け継いでいます。800 有余年の歴史を持つ備前焼は堅牢なやきものとして日本各地に流通し、戦国の世には、その「冷え枯れたる」趣により茶事に用いられ、戦国が終わる頃には為政者も重用するやきものとなりました。昭和 31(1956)年には、金重陶陽しげとうようが国指定重要無形文化財「備前焼」保持者(人間国宝)となり、新幹線が岡山まで開業したのをきっかけに多くの観光客が訪れるようになり高度成長ともあいまって多くの作家が生まれました。現在では伊勢崎 淳い せ ざきじゆん氏を含め 5 名の保持者を輩出したやきものの産地として全国・世界にも知られています。また、岡山県指定重要無形文化財「備前焼製作技術」でも現在 7 名が保持者の認定を受けています。



伊勢崎淳氏

備前焼の製作技術以外で無形文化財の指定や保持者の認定はなされていませんが、伊里地区にはかつて、竹筆の製作技術があり、また八木浄慶作やぎじょうけいのろう石製大日如来坐像だいにちによらいざそうや三石地区でろう石製の置物が散見されることから、江戸時代から続くろう石の加工技法が伝承されていた可能性があります。

(3)民俗文化財

指定の内訳は、県指定が 2 件、市指定が 4 件の合計 6 件です。このうち有形民俗文化財は、県指定 1 件、無形民俗文化財は県指定 1 件、市指定 4 件の合計 5 件となります。備前市は瀬戸内海の水運、山陽道など交通に恵まれたことから、他地域との交流が盛んな土地

です。備前市は市町村合併前の旧備前市、旧日生町、旧吉永町の三つの地域に大きく分けることができますが、地域によって生業が異なるために風習にも違いが生じています。現在でも、言葉や食生活にその様子を見ることができます。

① 有形民俗文化財

県指定として、3 か年にわたる総合調査の結果、新たに備前焼の製作道具が令和2(2020)年3月13日に指定されました。これは備前焼の採土、成形、窯詰め、焼成、窯出しといった各工程において使用する様々な道具1,100点が、用途を把握されたうえで一括保存されており、備前焼製作の様相を体系立てて把握することができる資料として評価されています。



備前焼の製作道具

日生地域の漁業は、加子浦歴史文化館につば網漁法など代表的な漁法の説明パネル、動画、模型、実際の漁具が体系立てて展示されています。

② 無形民俗文化財

県指定は、^{ふくいしこうじんじやかくらししまい}福石荒神社神楽獅子舞が「出立ちの舞」「村まわし」などの古式をよく伝えている獅子舞として、指定を受けています。

市指定は、神根神社獅子舞、投げ節・車唄、春日神社の獅子舞、^{そうごおど}寒河踊りの4件です。備前市内の祭りの多くは10月に集中しており、執行の中心役を交代で回す当屋制や神楽舞などが特徴として挙げられます。また、旧備前市では岡山藩主池田光政の時代に儉約令が出され、神輿やだんじりを用いての祭り、盆踊りが禁止されていたことから、明治以降に新しい要素を取り入れたものも多いことが推察されます。



祭礼が比較的古い姿を留めつつも受け継がれているのに対し、盆などの年中行事は姿を消しつつあります。海辺や河原で火を焚く「まんど」

福石荒神社神楽獅子舞

と呼ばれる盆行事や「とんど」と呼ばれる正月行事は、かつて旧備前市一帯で行われていたとされますが、現在は一部の地域で見られる程度です。また、備前焼まつりの際に行われる「かべりだいまつ」も元々は盆行事で内容も異なっていましたが、そのことを知る人も少なくなっています。害虫除けの為に吉永地区で行われていた「虫送り」は昭和30年代

に行われなくなりました。一方で、牛馬が田畑に出ることが無くなった今でも、^{たくらうしじんじや}田倉牛神社では五穀豊穰・商売繁盛・良縁等が祈念され、信仰が多様化しつつも継続されています。香登地区では、お歯黒粉の製造が奈良時代以降行われてきたとの伝承があり、昭和中期に途絶したものの、現在は黒豆の染色用として地元企業によって再生産が行われています。

(4)記念物

指定の内訳は、国指定が4件、県指定が3件、市指定が33件の合計40件となります。

①遺跡

国指定は、特別史跡1件、史跡3件が指定されています。特別史跡の「旧閑谷学校」は、史跡地内にある国宝の講堂をはじめほとんどの建物が国指定重要文化財となっており、全体が特別史跡として保存管理がされています。国指定史跡は、丸山古墳、岡山藩主池田家墓所、備前陶器窯跡の3件です。丸山古墳は吉井川東岸の丘陵部に立地する直径約60mの円墳です。堅穴式石室には特殊な彫刻文様を配した家形石棺があり、^{はくさいさんかくぶちしんじゅうきょう}舶載三角縁神獣鏡1面をはじめ、30数面の鏡が出土したことで知られ、岡山県南部における代表的な円墳です。岡山藩主池田家墓所は、池田家の菩提寺である京都花園妙心寺護国院の火災をきっかけに池田光政が津田永忠に命じて作らせました。墓所は山中にあり、光政の祖父輝政(姫路城城主)、父利隆、光政らを儒式で埋葬しています。



輝政の「一のお山」を中心に、合計7つの「お山」で構成されています。備前陶器窯跡は、伊部南大窯跡・伊部北大窯跡・伊部西大窯跡・医王山窯跡からなる窯跡群です。伊部南大窯跡は室町時代から江戸時代にかけて共同で操業され、七基の窯跡と破損品や窯道具を捨てた巨大な物原からなっています。伊部西大窯跡に接する^{いおうざんかまあと}医王山窯跡は、平安時代から室町時代にいたる十基の窯跡からなります。備前焼の成立から大窯生産への推移を知る上で重要な史跡として、これら同時期の大窯跡が指定を受けています。

県指定は2件あります。^{しずたにやきかまあと}閑谷焼窯跡は、旧閑谷学校の講堂の瓦を焼くために造られた窯で、後にその窯を利用して藩主が使用する茶器・細工物などが焼成されていました。三石城跡は、元弘3(1333)年に南朝方の挙兵に呼応した伊藤大和二郎が山陽道を塞ぐ目的で城

を構えたのが始まりとされています。県指定天然記念物である住吉島の樹林は、流紋岩からなる周囲 290mの小島に暖帯樹ウバメガシが群生していることから、島嶼部の原生林として貴重とされています。

市指定記念物は史跡 22 件あります。市指定としては、中世山岳仏教の大伽藍跡として、山上伽藍八塔寺の旧跡や、旧閑谷学校の学校田である井田跡^{せいでんあと}などが代表的です。

未指定の史跡としては片上地区に縄文時代の長縄手遺跡、鹿久居島に中世の千軒遺跡^{せんげんいせき}などの遺跡がみられます。特別史跡旧閑谷学校に関して、吉永地区に旧閑谷学校の教授役で国特別史跡の一部である黄葉亭^{たけもとくんりゅう}を設けた武元君立の宅跡が、旧閑谷学校近くには、明治 17(1884)年に再興した閑谷巒^{にしびざん}の巒長西薇山をはじめとした、江戸時代からの閑谷学校関係者の墓所があります。備前焼の窯跡に関しても、指定史跡以外に不老山^{ふろうさん}、榎原山^{かやはらさん}など伊部地区を中心に 120 箇所以上の地点が知られています。

②名勝地

市指定 3 件のうち、大滝山・熊山は、熊山の中腹にある大滝山福生寺を中心として、寺院跡・古窯跡を含みモミ・スダジイ・スギなどからなる自然度の高い樹林が残されている地域です。深谷の滝は、石塔山を源とする二段滝で、上の段にあたる雄滝は幅 2mあまり、落差が 13mほどあります。

③ 動物・植物・地質鉱物

県指定は 1 件で、「椎の樹林」は久々井八幡宮社叢^{くぐいはちまんぐうしゃそう}のシイノキからなる自然林です。

市指定は 8 件で、ヒメボタルは滝谷神社の社叢内に生息が確認されているホタルの一種で、陸生貝をえさとする森林性の昆虫です。金彦神社社叢は、社叢内にはスギやモミ、カヤ、アラカシ、ケヤキ、ムクノキの巨樹が生育するほか、ヤマモミジ、サルスベリ、モッコクなどの老木が見られます。コウヤミズキ自生地は、八塔寺川と大藤川との合流点下流にあり、早春に黄色の花を咲かせるコウヤミズキが群生します。高良八幡^{こうらはちまん}の社叢は、ウバメガシが優占する海岸林で、瀬戸内沿岸の海岸植生をよく留めています。西願寺^{さいがんじ}のイチョウは、西願寺境内にある巨木です。おがたまの木は、吉永小学校の校庭にあり巨木ですが、近年樹勢が衰えたため、学校の授業で樹勢回復の取り組み



高良八幡社叢

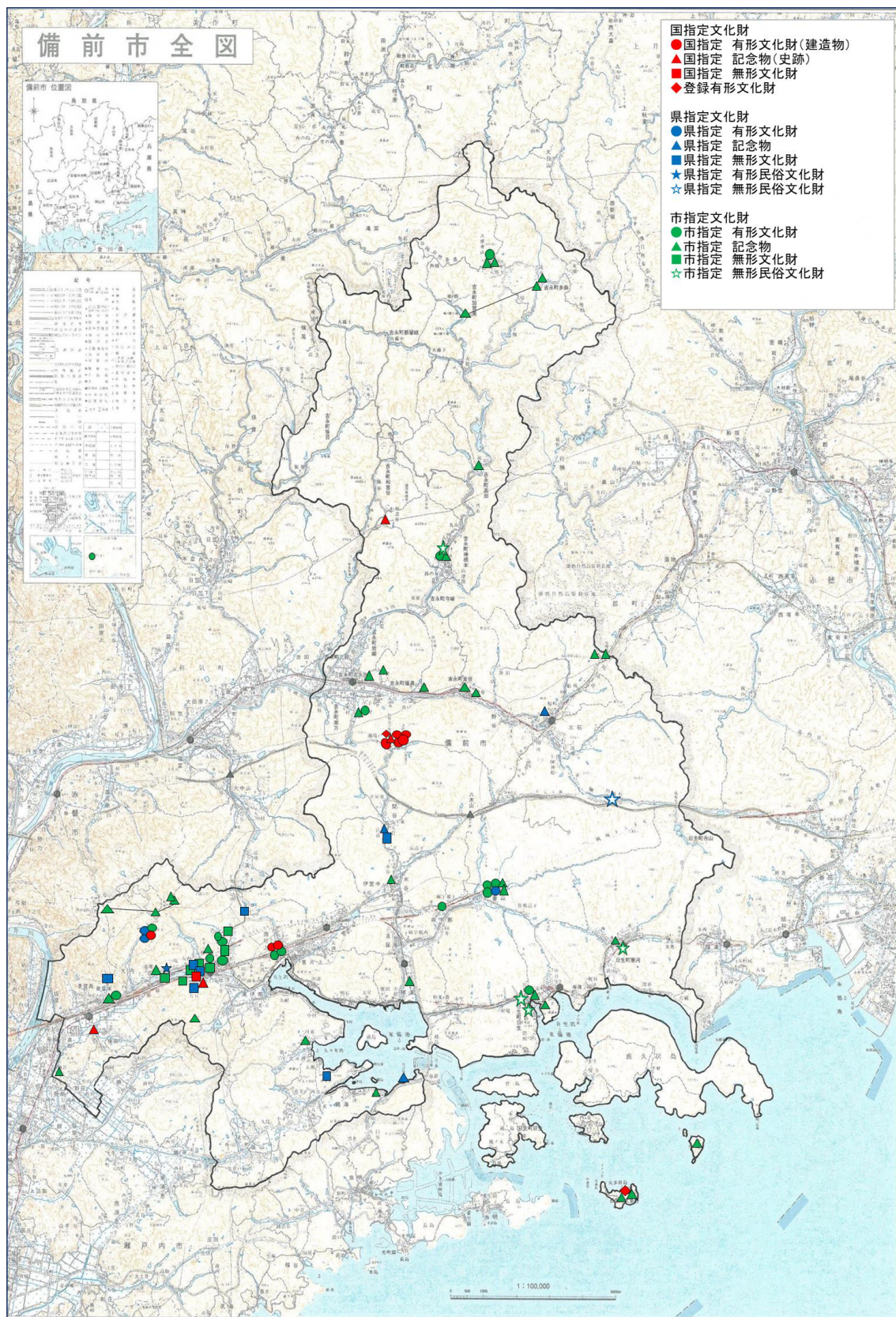
がなされています。モリアオガエルは、梅雨時に泡状の卵塊を葉や木の枝などに産み付ける両生類で、吉永地区(加賀美・多麻^{かがみ たま})にある数か所のため池のほとりで産卵がみられます。

(5)文化的景観

国・県・市として選定されているものはありませんが、伊部地区においては備前焼の窯元・作家の登り窯煙突や備前焼を使った瓦や塀が見られる町並みが、日生地区においては瀬戸内海の島々の景観や海上のカキ筏、沿岸には係留された漁船群や三階建ての建物といった漁村特有の風景が見られます。市指定史跡の井田跡では、江戸時代に整備された区画が現在でも田畑・宅地の境界線を形成しており、江戸時代の農業の姿を推定することができます。吉永地区(八塔寺地域)では、山中の開けた土地に市指定史跡の山上伽藍八塔寺の旧跡や、岡山県近代化遺産として調査を受けた三村久吾生家(八塔寺国際交流ヴィラ)といった農家の屋敷などがあり、岡山県によって独自に進められた事業で「八塔寺ふるさと村」として整備されています。三石地区には、先述した耐火煉瓦製造工場の煙突や耐火煉瓦の構造物が散見されるなど、それぞれの地域に特徴的な景観が見られます。

(6)伝統的建造物群

備前市内に伝統的建造物群として選定されているものはありませんが、備前焼の作家や窯元が軒を連ねる伊部地区では、江戸時代から続く窯元が多く、近世山陽道沿いに店を連ねています。道に面した側では商品を展示して販売する、奥には工房を配置するという明治時代からの店構えが多く見られますが、江戸時代の建物はほとんど現存していません。近年では、鉄筋コンクリート造りの建物も多くなっています。



【図 3-1】 指定文化財分布図(美術・工芸品を除く)

2 日本遺産

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となり総合的に整備・活用することで、国内外に戦略的に発信し、地域の活性化を図ることを目的としています。

本市においては、平成 27(2015)年度に茨城県水戸市の旧弘道館^{きゅうこうどうかん}、栃木県足利市の足利学校跡^{あしかががっこうあと}、大分県日田市の咸宜園跡^{かんぎえんあと}等と併せて「近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー」として、また平成 29(2017)年度に福井県丹生郡越前町の越前焼、愛知県瀬戸市の瀬戸焼、愛知県常滑市の常滑焼、滋賀県甲賀市の信楽焼、兵庫県丹波篠山市の丹波焼と併せて「きっと恋する六古窯 ー日本生まれ日本育ちのやきもの産地ー」として認定を受けています。

(1) 「近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー」

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層の武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に着けるなど、高い教育水準を示してきました。これは、藩校や郷学^{ごうがく}、私塾、寺子屋など、様々な階層を対象とした教育機関の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれています。

4 市にはそれぞれ「世界に誇る日本の教育」を象徴する資産群が点在しており、本市の構成資産は次のとおりです。

① 旧閑谷学校（国宝・国特別史跡・国重要文化財）

岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校といわれており、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化資源です。

② 枳菜^{せきさい}（未指定）

江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、そこでは孔子の徳を称える儀式が行われていました。閑谷学校でも貞享 3(1686)年に枳菜が始まり、現在も行われています。

③ 備前国和気郡井田村延原家文書（未指定）

検地帳^{けんちちょう}などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子もたちが学校に通う様子がわかります。

④ 熊沢蕃山^{くまざわばんざん}宅跡（市史跡）

池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学びました。蕃山隠居の地が学校からほど近いところに残っています。

⑤ 井田跡（市史跡）

池田光政が中国周時代に行われたとされる統治制度とされる井田法を再現させた新田です。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえました。

(2) 「きっと恋する六古窯 -日本生まれ日本育ちのやきもの産地-」

瀬戸、越前、常滑、信楽、丹波、備前のやきものは「日本六古窯」と呼ばれ、世界に誇る日本古来の技術を継承している、日本生まれ日本育ちの、生粋のやきもの産地であります。中世から今も連綿とやきものづくりが続くまちは、丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいます。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した塀沿いに進めば、「わび・さび」の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出合うことができます。

六古窯は、各々で生まれた伝統や製作技術とともに、さりげなくそしてほのぼのと来訪者を出迎える町並みとやきものが、日本人のおもてなしの心を表しており、その一つである本市の構成資産は次のとおりです。

① 焼物の里の文化的景観（未指定）

窯元の角地に松割木のまきが規則的に積み重ねられ乾燥させられています。松割木は窯焚きの時、煉瓦製の煙突から黒色の煙がはき出します。伊部を囲む山々、不老山、医王山は流紋岩からなり、そこから生成、堆積した田土は備前焼の原料粘土として使用され、独特の味わいを器に描き出します。伊部の旧家の中には土塀に窯の破片・陶片を練りこみ、屋根に半分にした土管をのせるものがみられます。

② 備前焼の焼成技術（未指定）

備前焼は登り窯や窖窯で焼成されますが、炎によりうつわの表面に描き出された独特の味わいは「窯変^{ようへん}」と呼ばれます。現在では備前焼のように「まき」で焼成する産地は少なく、窯焚きは釉薬を使わない土にあわせた独特のものです。

③ 無形文化財 備前焼の製作技術（国重要無形文化財・県重要無形文化財・市無形文化財）

後に「備前焼中興の祖」と称される金重陶陽が人間国宝になり、日本の高度成長と重なり、多くの作家が生まれました。現在では伊勢崎淳氏をはじめ5人の人間国宝を輩出

したやきものの産地として知られています。岡山県、備前市でもそれぞれ無形文化財の保持者を認定する制度を運用しています。

④ 備前焼熊山古窯跡群（市史跡）

伊部の北、熊山山中に点在する窯跡群で、鎌倉時代から室町時代のもの 17 基が市指定史跡になっています。付近には名勝地の屏風岩もあります。

⑤ 備前陶器窯跡（伊部南大窯跡・伊部西大窯跡・伊部北大窯跡・医王山大窯跡）（国史跡・市史跡）

室町時代末頃に築かれ、江戸時代は岡山藩の保護と統制を受けながら、窯元六姓の制度の中で幕末まで操業された大窯跡群で、いずれの窯でも長大な規模をもつ複数の窯が見つかっています。

⑥ 小幡山長法寺・天津神社（市有形文化財）

備前焼の作家・窯元のゆかりの寺社で、備前焼が多く寄進されています。長法寺は報恩大師備前四十八ヶ寺のひとつで、本堂は明和 7(1770)年に上棟しています。天津神社は天正 7(1579)年、現在地に遷宮されたもので、本殿は延宝 6(1678)年の改築です。門・参道には備前焼瓦などが使用されています。

⑦ 備前焼狛犬（県重要文化財・市有形文化財）

備前市では、神社の社頭で備前焼の宮獅子を見かける機会が多く、江戸時代後半から近代にかけて窯元の主力商品として多く作られ、全国へ流通しました。木谷天神社に奉納された備前焼狛犬や片上宇佐八幡宮の大型の獅子は代表的な作品です。

⑧ 旧閑谷学校（国宝・国特別史跡・国重要文化財）

国宝の講堂や聖廟など主要な建物だけで約 5 万枚の備前焼の瓦が使用されています。

⑨ 備前焼まつり（未指定）

備前焼のまち伊部で、毎年 10 月第 3 日曜日とその前日の土曜日に開催されており、日本全国や海外から十数万人の方が訪れる大規模な陶器の祭りとなっています。